

継続事業評価調書
【河川事業】

土木局河川整備課

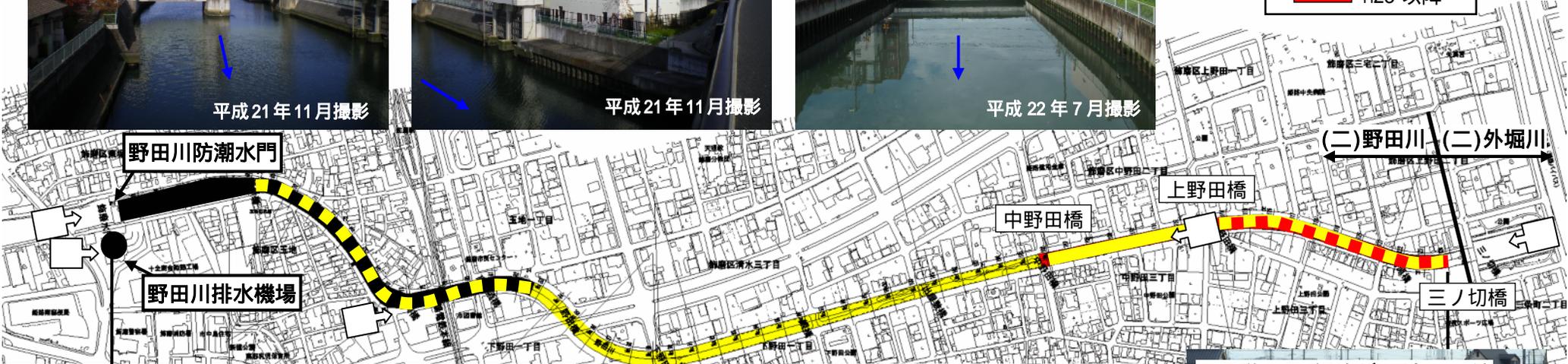
投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 小西 克彦 (都市河川係長 宮永 和幸)		内線	4408 (4417)
事業種目	河川	新規評価年度	-		現計画	前回再評価時点
事業名	地震・高潮対策河川事業 (二)野田川水系 野田川	事業採択年度	S47	総事業費	95.7 億円	109 億円
		着工年度	S47	内用地補償費	2 億円	2 億円
事業区間	姫路市飾磨区中島～上野田	再評価年度	H10	完成予定年度	H23	H20
			H15 (H17)	進捗率 (内用補進捗率)	99.2% (100%)	84.8% (100%)
所在地	姫路市			残事業費	0.8 億円	16.6 億円
事業の目的			事業内容			
播磨灘沿岸では、昭和39年の台風20号、昭和40年の台風23号の高潮により浸水被害が発生し、特に、昭和51年9月の台風17号では、当該河川で大規模な浸水被害が発生するなど、過去から幾度となく浸水被害に見舞われてきた。 このため高潮を防御するとともに、洪水に対する治水安全度1/100を目標に河川改修を行い、当該地域の浸水被害を防止し、地域住民の安全・安心な生活環境を確保する。			現計画		前回(H15)	
			治水安全度	1/100	1/100	計画流量
			(計画基準点)	(野田川防潮水門)	(野田川防潮水門)	
			整備延長	1,895m	1,895m	
			主要工種	掘削、護岸、道路橋10橋、鉄道橋1橋、排水機場(ポンプ2基)、防潮水門	掘削、護岸、道路橋10橋、鉄道橋1橋、排水機場(ポンプ3基)、防潮水門	
			〔負担割合 国：1/2、県：1/2〕			
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年6月、近年の降雨量や事業の進捗状況を考慮した上で、魚類の生息環境に配慮した河床掘削方法等の見直しを行った「野田川水系河川整備計画」を策定したことから、平成17年度に「事業継続」の再評価を得たものと見なし、事業を継続している。(河川整備計画の対象期間：平成17年から概ね30年) 野田川を含む播磨地区高潮対策事業は、概ね各河川に防潮水門が設置され、排水機場も高潮時治水安全度約1/50を確保し暫定運用しており、河川改修の効果とも相まって、近年、大きな高潮被害は発生していない。 					
	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 <ul style="list-style-type: none"> 計画流量の変更 120m³/s 110m³/s (ただし、河床掘削区間の流量変更はなし) 排水ポンプは、全体計画3台(高潮時治水安全度1/100対応)のうち2台が完成し、他の河川と同様の高潮時治水安全度1/50を確保している。近年の高潮災害の発生状況や近隣河川での治水安全度も考慮し、残る1台のポンプ設置時期を再検討することとした。 河床掘削の残区間(約350m)は、平成23年度末で完了とする。 					
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 昭和47年度から事業に着手し、護岸の整備(L=1,895m)、橋梁架け替え(11橋)、水門(1門)及び排水機場(ポンプ3台中2台)について完成している。 河床掘削が残事業となっているが、平成22年度末時点で上野田橋まで実施し、残る約350mは平成23年度で完了する。 					
評価視点			評価結果の説明			
審査会意見及び対応方針 (H15年度再評価)	【審査会意見】		単に浸水被害を防止するための河川改修だけでなく、生物の生息空間、親水空間としても十分に配慮されたい		【対応方針】	
(1)必要性	・昭和39年9月台風20号、昭和40年9月台風23号による高潮被害や、昭和51年9月台風17号の洪水による甚大な被害(浸水被害戸数830戸、浸水面積36ha)が発生するなど、度々被害を被ってきた。		・姫路市南部市街地の浸水被害を防止するため、残区間を整備する必要がある。		・滞筋の形成	
(2)有効性・効率性	・B/C=25.50(前回B/C=2.3)		・残区間は約350mの河床掘削であり、事業効果の即効性が高い。		・自然植生の保全	
(3)環境適合性	・魚類の生息環境保全のため、河床掘削は、平坦河床とせず自然な滞筋を形成する。また、ミクリなど自生植物の保全を行う。					
(4)優先性	・高潮対策は概成したが、洪水に対しては河積が小さく、治水安全度が低いことから、姫路市南部市街地を浸水被害から防御するために優先性は高い。					
再評価の結果	事業継続	左の理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、浸水被害の再発を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保するため、継続して事業を実施する必要がある。			

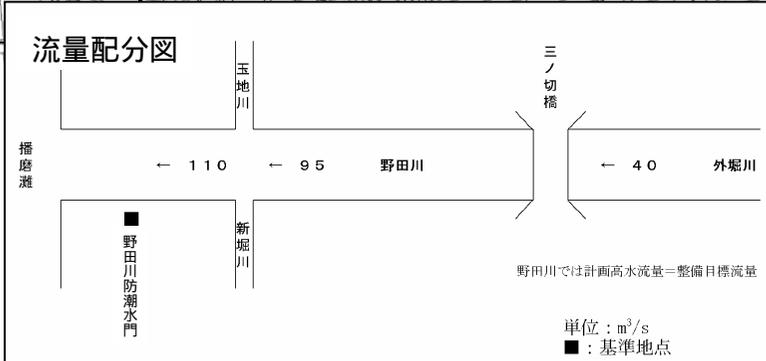
事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第4回〕）

事業名	地震・高潮対策河川事業	路線・河川名	(二)野田川水系 野田川
	<p>(二)野田川 地震・高潮対策河川事業 L=1,895m</p> <p>事業箇所</p>		
	<p>事業進捗状況・予定</p>	<p>整備効果</p>	
全体	<p>S47～H23年度【事業費＝95.7億円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体延長 L=1,895m ・計画流量 Q=110m³/s ・整備概要 掘削、護岸、橋梁10橋、鉄道橋1橋、防潮水門、排水機場 		
前回再評価まで（実績）	<p>事業採択からH15年度【事業費＝92.2億円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸、橋梁10橋、鉄道橋1橋、防潮水門1門 完成 ・排水機場 概成（ポンプ2/3台(24.67/37.0 m³/s) ・下流側基点から恵美酒橋上流(No.82+20)までの暫定掘削(治水安全度1/10)が完成 	<p>防潮水門及び排水機場の完成により高潮時の浸水被害を防ぐことが可能となった。</p>	
過去7年間	<p>H16～22年度【事業費＝2.7億円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵美酒橋上流(No.82+20)から事業区間の上流端（三ノ切橋）までの暫定掘削(治水安全度1/10)が完成 ・下流側基点から上野田橋までの治水安全度1/100対応の河床掘削が完成 	<p>上野田橋までの治水安全度の向上が図られた。</p>	
今後1年間（予定）	<p>H23年度【事業費＝0.8億円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に上野田橋から事業区間の上流端（三ノ切橋）までの1/100対応の河床掘削が完成 ・このことにより、全事業区間の河床掘削が完了する。 	<p>全区間で治水安全度1/100が確保できる。</p>	

野田川 平面図

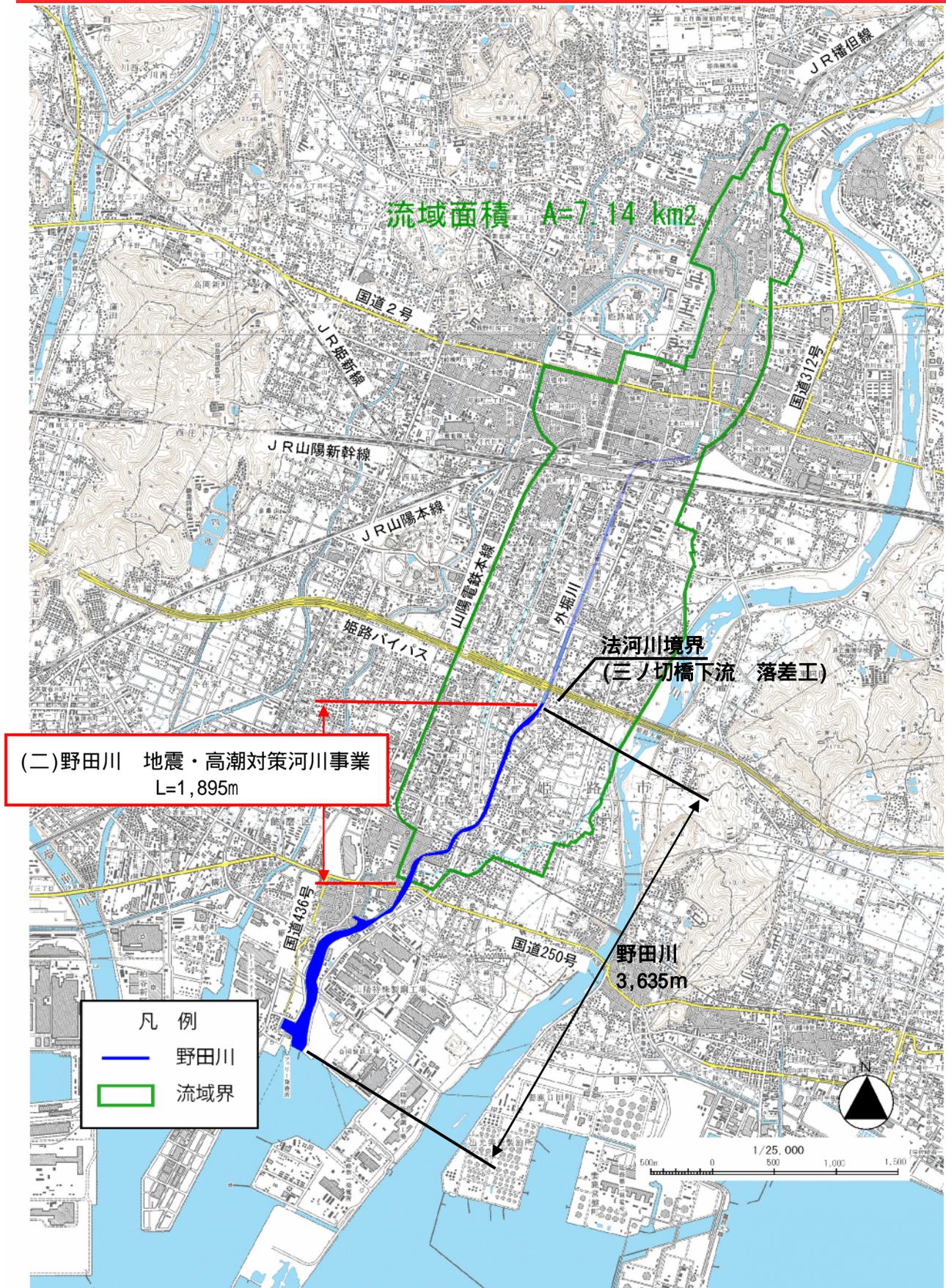


河整-3



(二)野田川 地震・高潮対策河川事業 L=1,895m

流域概要図



浸水状況（昭和39年9月台風20号）

